

# 若手能楽師が大須お練り

名古屋を中心我能楽の次代を担う後継者が舞台に立つ「若獅子の会」による十四日の初公演（名古屋能楽堂）を前に、地元シテ方親世流、久田勘吉郎さん（三〇）ら演者や関係者約五十人が一日、中区の大須商店街を練り歩き、大須観音で公演の成功を祈願した。

勘吉郎さんの師匠で

## 14日の初公演成功を祈願

父の勘吉郎さん（六）が「能楽界発展へ、皆さまに若者の頑張る姿を見て応援していただき」と企画。能楽界でのお練りは全国初という。

父の勘吉郎さん（六）があいて公演をPR。紋付きはかま姿の勘吉郎さんや野村信朗さん（三）ら演者や関係者が万松寺から大須観音までを練り歩いた。

先頭の山伏がほら貝を吹き鳴らし、舞台衣装を着た地元の和泉流狂言師、井上松次郎さん（四）と野村又三郎さん（五）は「私たちとは歩き方から違う。能に興味を湧いた」と楽しげだった。勘吉郎さんは「若い力を合わせ、いい舞台をつくるという決意を新たにしたい」と話した。

（加藤智子）



練り歩く久田勘吉郎さん（手前から2人目）ら  
中区の大須商店街で